

第3章 市民等意識調査結果

都市計画マスタープランの改定に当たり、市民等の意見や要望を計画に反映させるために、市民等意識調査を実施しました。

3-1 市民等意識調査の概要

(1) 調査の概要

多様な世代や市内外から意見を聴取するために、郵送方式と Web 方式の2つの方法にて実施しました。

	郵送方式	Web 方式
調査地域	島田市全域	島田市、藤枝市、焼津市（志太3市）
調査対象者	市内にお住まいの満20歳から79歳までの男女2,000人 （住民基本台帳より無作為抽出）	3市におけるリサーチ会社によるモニター会員5,735人 ※楽天インサイト（株）
調査期間	2018年（平成30年） 8月10日～8月24日	2018年（平成30年） 8月10日～8月12日
調査方法	郵送による配布回収	Web 上での配信、回収
質問概要	<ul style="list-style-type: none"> ・属性 ・市のイメージ ・市のまちづくりに対する満足度、重要度 ・地域のまちづくりに対する満足度、重要度 ・今後の居住環境 ・まちづくりの方向性 ・地域の誇り、魅力 ・空き家問題 ・日常生活と交通手段 ・移動手段と公共交通 ・コンパクトシティ施策 ・生活環境に必要な施設 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・属性 ・市のイメージ ・市の魅力 ・市の課題 ・まちづくりの方向性

(2) 回収率

郵送方式では、2,000人に対してアンケート調査票を送付し、961人（48.1%）の方からご回答をいただきました。また、Web方式では、配信から2日間で目標とする500人からご回答をいただきました。

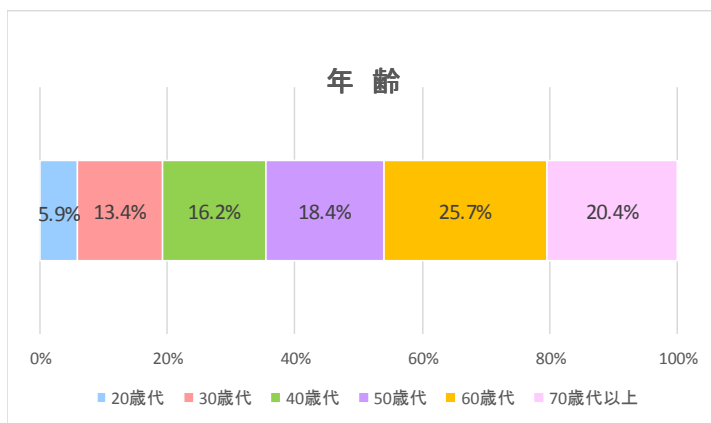
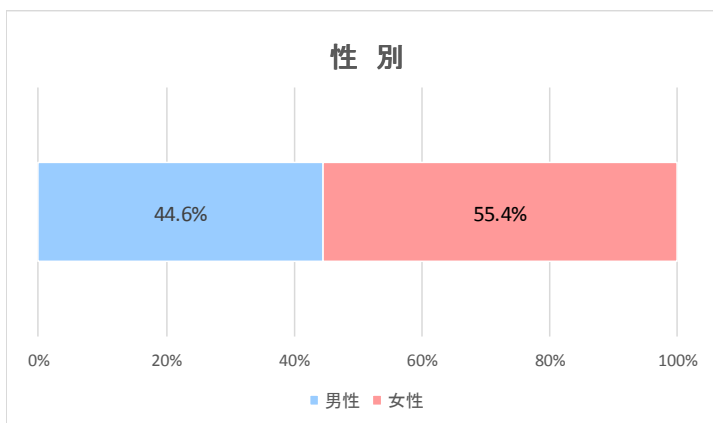
	郵送方式	Web 方式
配布・対象者	2,000人	5,735人
回収	961人	500人 ※回収が500人に達した時点で締切とした
回収率	48.1%	—

3-2 郵送方式によるアンケート調査結果

(1) 属性 (問1)

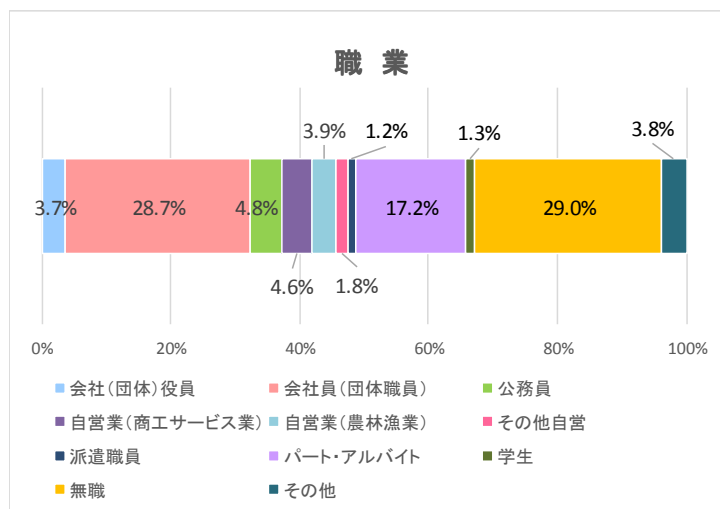
《性別と年齢》

回答者の割合は、女性が 55.4%、男性が 44.6%となっています。年齢別では、60 歳代 (25.7%) が最も多く、70 歳以上 (20.4%)、50 歳代 (18.4%)、40 歳代 (16.2%) となっています。



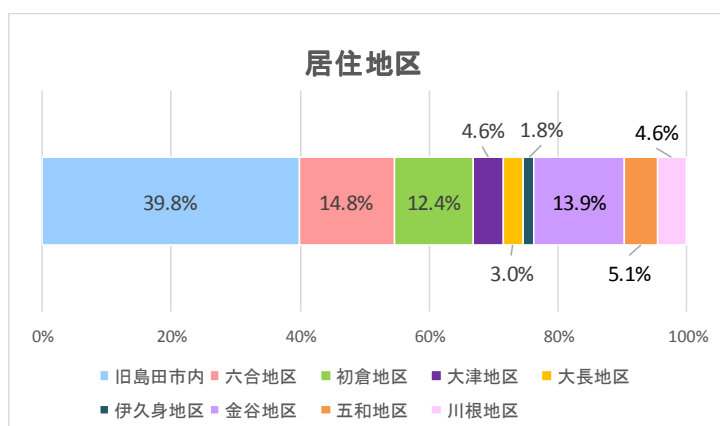
《職業》

回答者の割合は、無職 (29.0%) と会社員 (28.7%) が多く、パート・アルバイト (17.2%) を加えると全体の 3/4 を占めています。



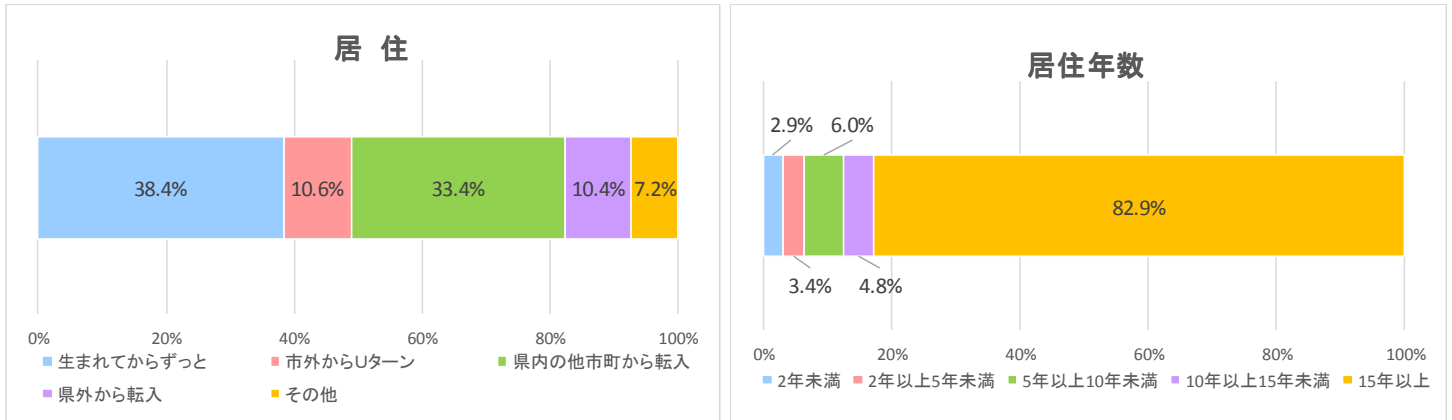
《居住地区》

回答者の割合は、旧島田市内 (39.8%)、六合地区 (14.8%)、金谷地区 (13.9%)、初倉地区 (12.4%) となっています。



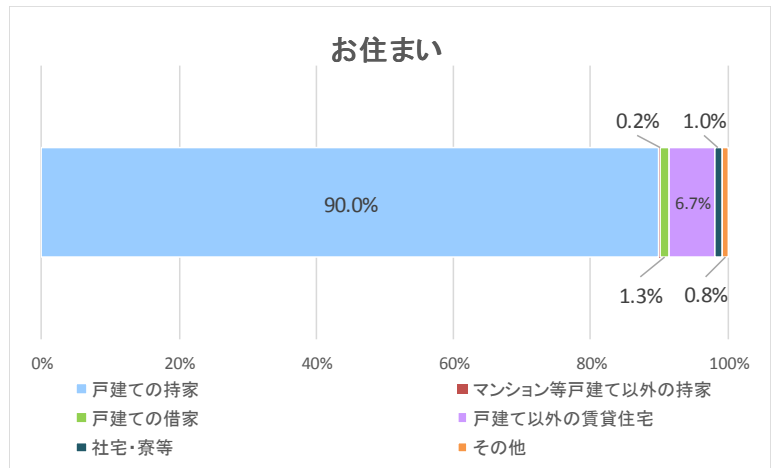
《居住と居住年数》

居住についての回答では、「生まれてからずっと」(38.4%)、「県内の他市町から転入」(33.4%)、「県外からの転入」、「市外からUターン」(10.6%)となっています。市外から転入された方が多い結果でした。また、居住年数は、15年以上(82.9%)の方が多いため、転入後、引き続き島田市に住み続けてくださる方が多いようです。

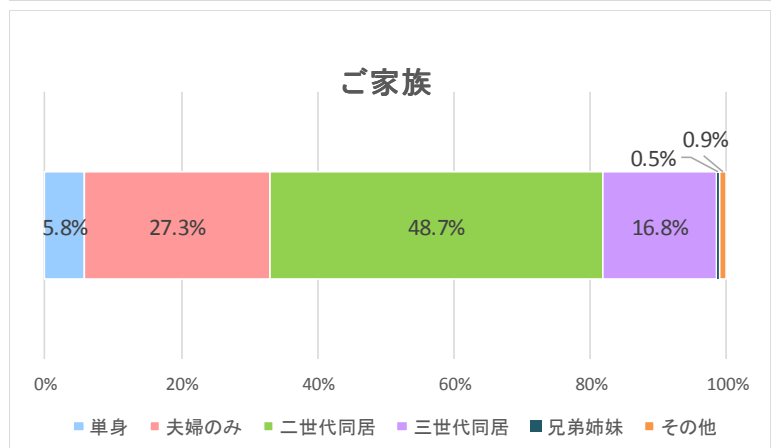


《お住まいとご家族》

お住まいについては、「戸建ての持ち家」(90.0%)が最も多い結果となっています。家族構成は、「二世帯同居(親と子の核家族)」(48.7%)「夫婦のみ」(27.3%)、「三世帯同居(親と子と孫)」(16.8%)となっています。



(参考)
「2015年(平成27年)国勢調査」における「三世帯世帯数」の全国平均値は、5.7%となっています。

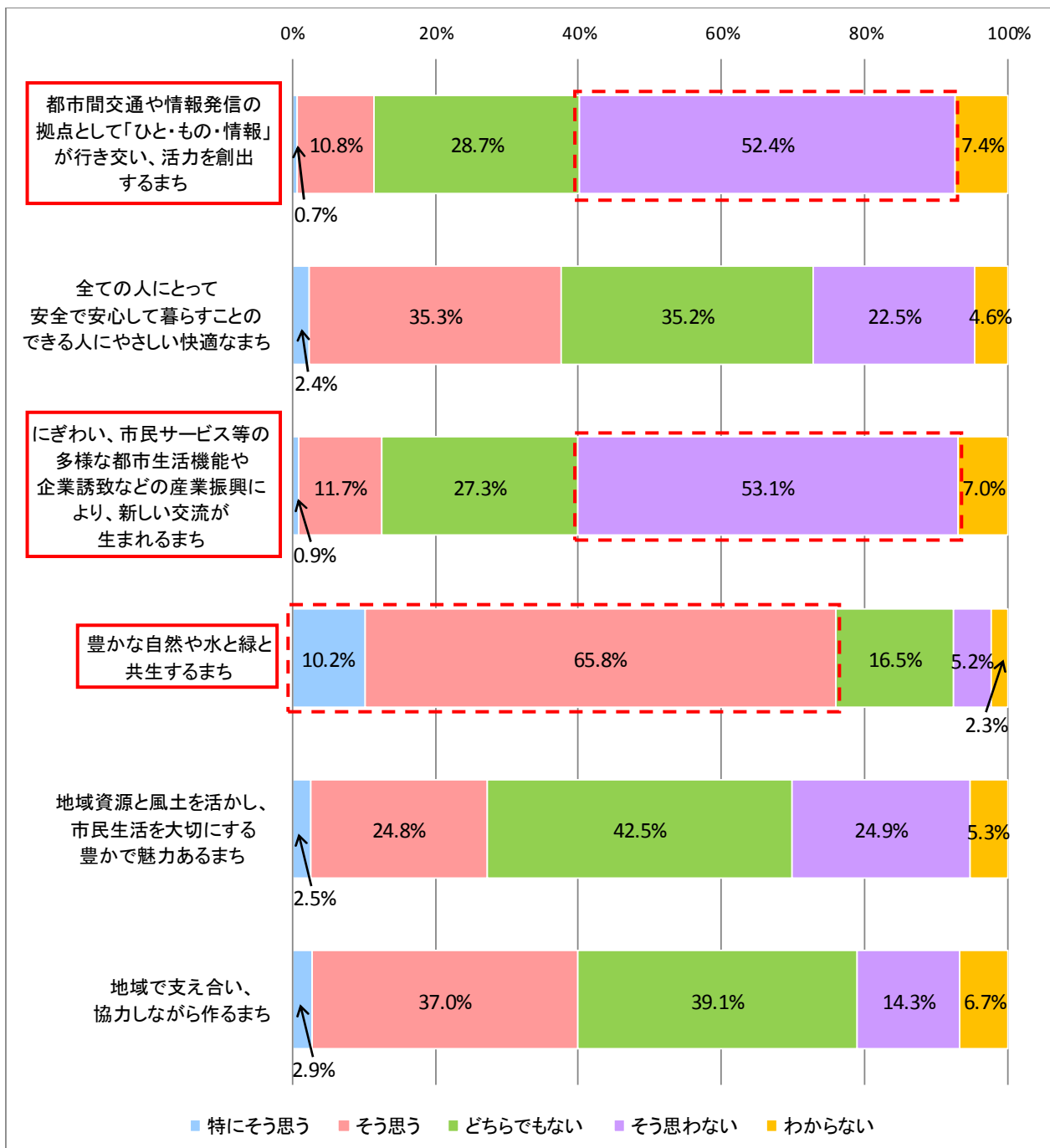


(2) 市のイメージ

問2 《現在の島田市について、どんなイメージをお持ちですか》

本市のイメージで最も多かった回答は「豊かな自然や水と緑の共生するまち」で「特に思う」、「そう思う」を合わせると76.0%の回答がありました。一方、「にぎわい、市民サービス等の多様な都市機能や企業誘致などの産業振興により、新しい交流が生まれるまち」（そう思わない53.1%）、「都市間交通や情報発信の拠点として「ひと・もの・情報」が行き交い、活力を創出するまち」（そう思わない52.4%）についてイメージが低い結果となりました。

現在の本市のイメージ

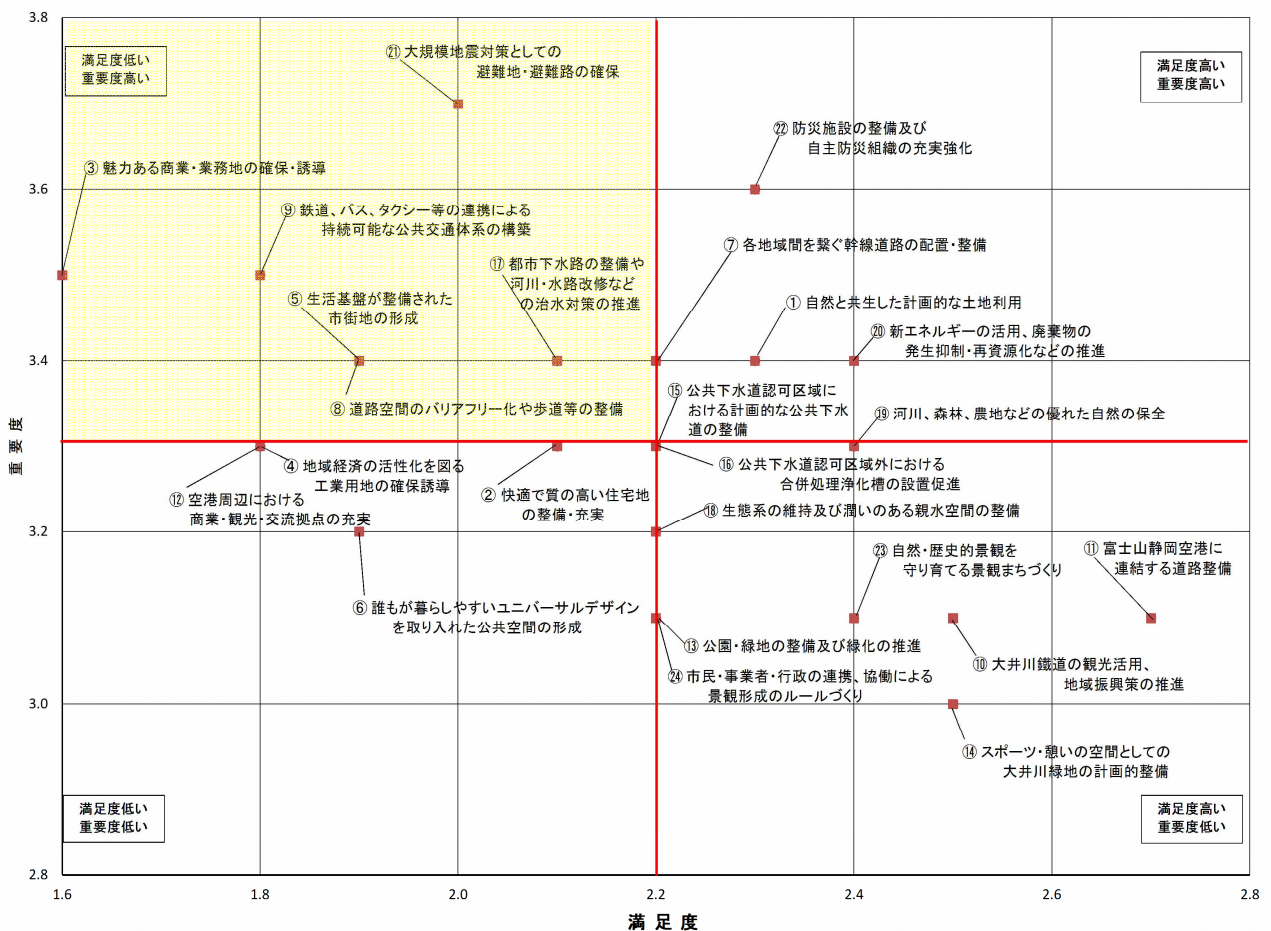


(3) 市のまちづくりに対する満足度、重要度

問3 《島田市のまちづくりに対する「現状の満足度」と「今後の重要度」について》

「満足度が低く、重要度が高い」次の項目（図の左上部分）が、まちづくりの施策としての優先度が高いと考えられます。

- ② 大規模地震対策としての避難地・避難路の確保
- ③ 魅力ある商業・業務地の確保・誘導
- ⑨ 鉄道、バス及びタクシー等の連携による持続可能な公共交通体系の構築
- ⑤ 生活基盤が整備された市街地の形成
- ⑧ 道路空間のバリアフリー化や歩道等の整備
- ⑰ 都市下水路の整備や河川・水路改修などの治水対策の推進

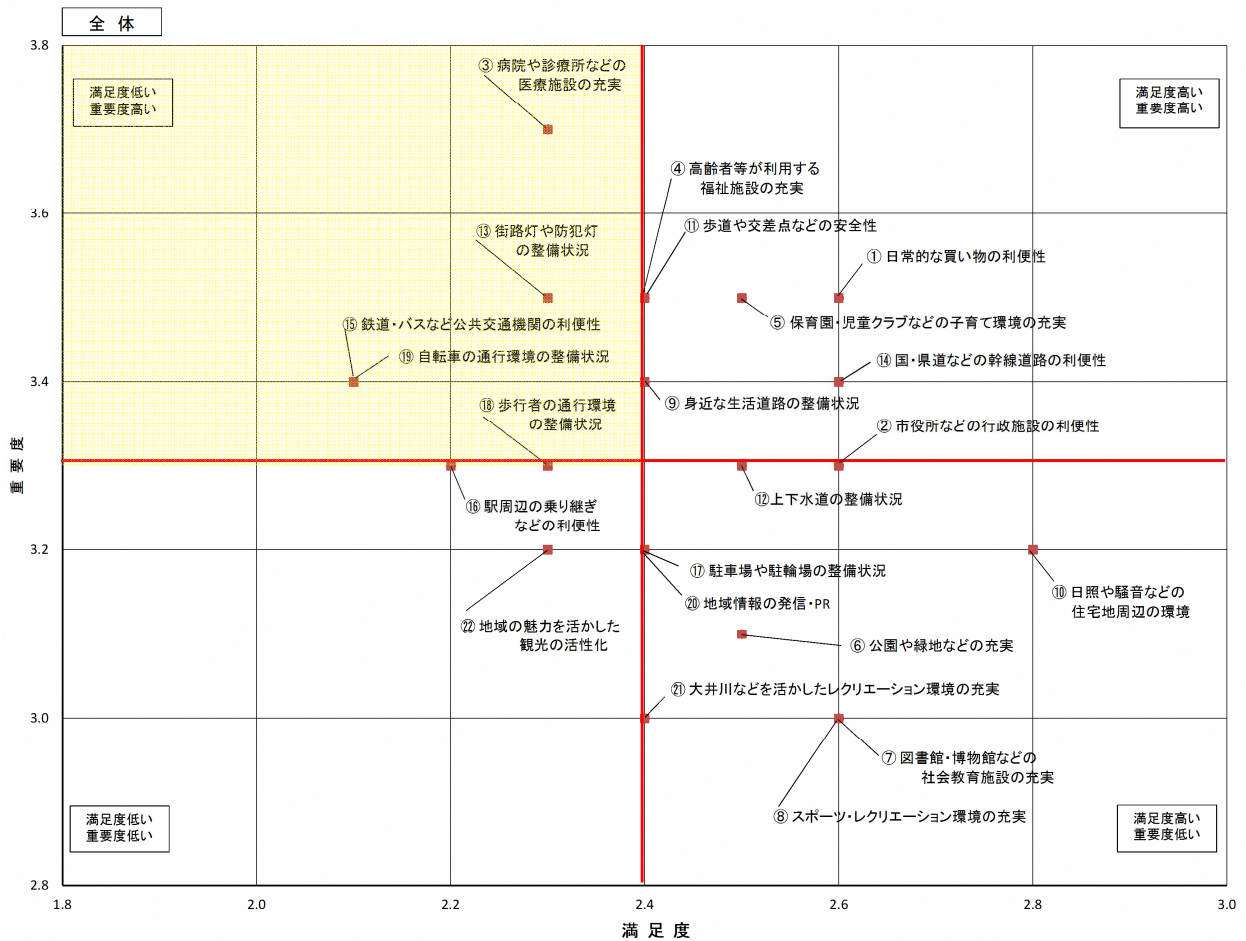


(4) 地域のまちづくりに対する満足度、重要度

問4 《お住まいの地域のまちづくりに対する「現状の満足度」と「今後の重要度」について》
 「満足度が低く、重要度が高い」次の項目（図の左上部分）が、地域のまちづくりとしての優先度が高いと考えられます。各地域で共通して優先度が高い施策は次のとおりです。

- ③ 病院や診療所などの医療施設の充実
- ⑨ 身近な生活道路の整備状況
- ⑬ 街路灯や防犯灯の整備状況
- ⑮ 鉄道・バスなどの公共交通機関の利便性
- ⑲ 自転車の通行環境の整備状況
- ⑱ 歩行者の通行環境の整備状況

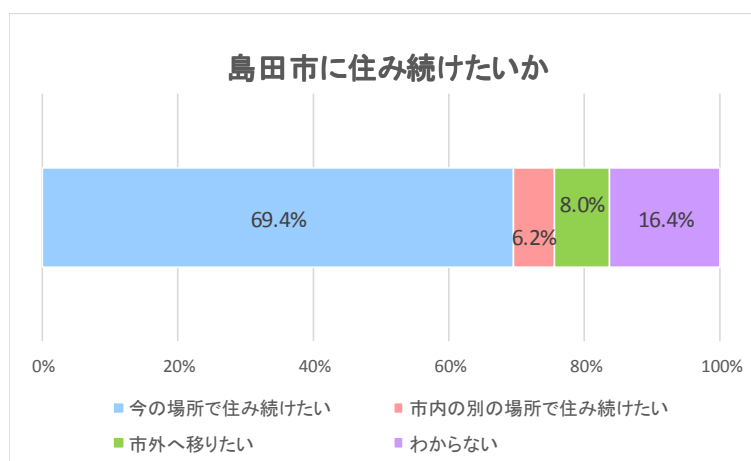
<市全体>



(5) 今後の居住環境

問5 《これからも島田市に住み続けたいと思いますか》

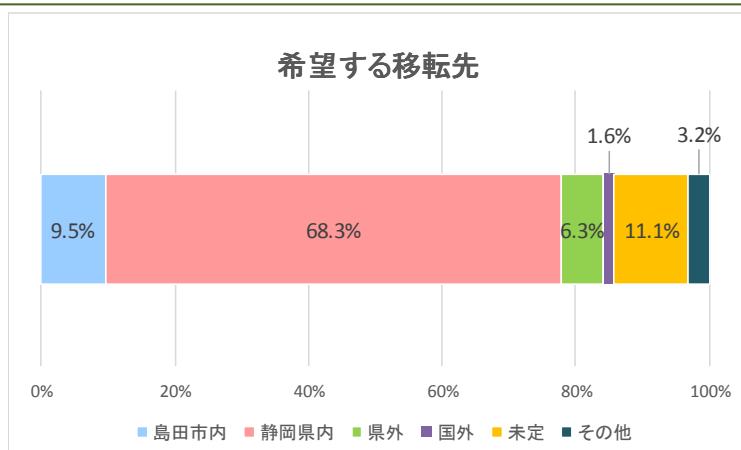
「今の場所で住み続けたい」(69.4%)と「市内の別の場所で住み続けたい」(6.2%)を合わせて約3/4の方が本市での定住意向を示しています。



問6 《移りたい方の理由と移転先について》

移りたい方の理由は様々ですが、「買い物や病院、公共交通など、日常生活が不便」、「車の運転ができなくなる老後が不安（公共交通の不便さ）」、「道路環境や公害・災害及びコミュニティなど、居住環境に関する不満・不安」などの理由が多くなっています。

希望する移転先は、「静岡県内」(移転先回答者の内、68.3%)が多くなっています。



問6 移りたい理由の主な回答

生活が不便

- 近くにスーパーや病院がない
- 買い物等が不便
- 車がないと移動が不便など

老後の不安

- 車の運転ができなくなると、交通手段がないなど

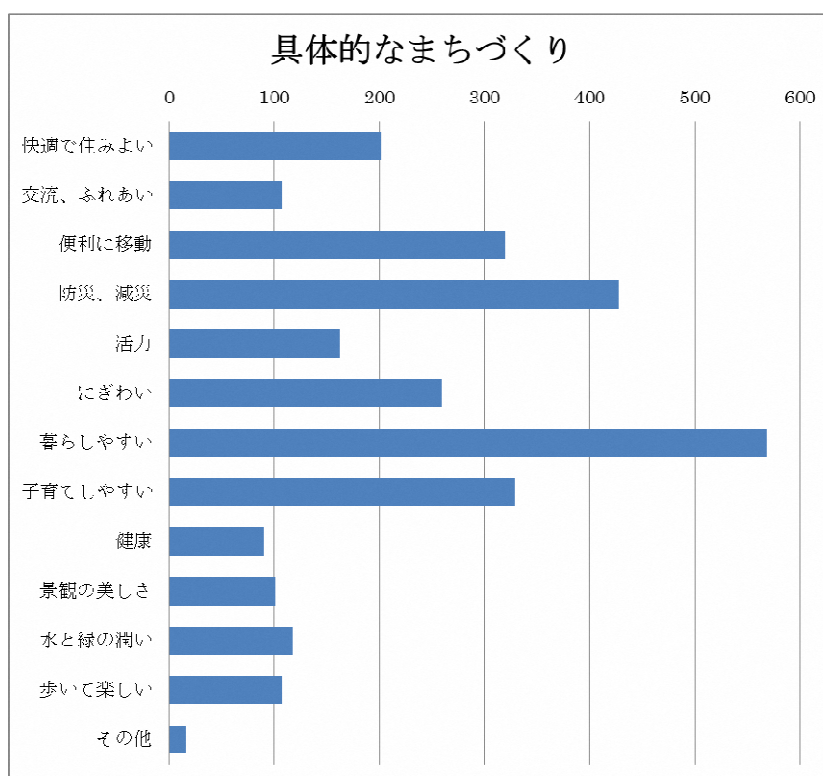
居住環境の不満・不安

- 住環境（騒音等）や災害への不安
- 近所付き合い、コミュニティに対する不満など

(6) まちづくりの方向性

問7 《これからの島田市の具体的なまちづくりに重要なことについて》（3つまで選択）

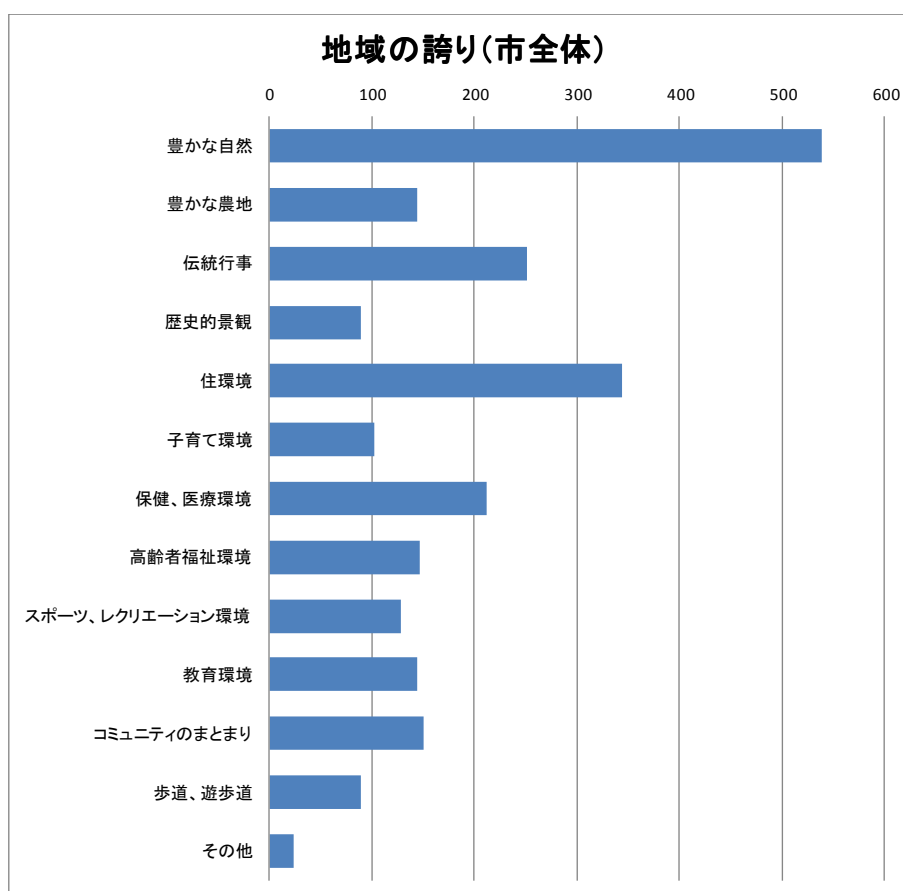
「医療・福祉環境が充実した【暮らしやすい】まち」、
 「地震・大雨などの自然災害に強い【防災・減災】のまち」、
 「子育て・教育環境が充実した【子育てしやすい】まち」、
 「道路や公共交通網が整備され、市内外に誰もが【便利に移動】できるまち」、
 「魅力ある商業環境を整えた【にぎわい】のあるまち」
 の順に多くなっています。



問7 具体的なまちづくり「その他」の主な回答	
観光	○蓬萊橋などの観光資源の活性化 ○大井川の活用など
出産	○安心して子供を産むことができる病院の整備など
若い世代	○若い世代が住みたいと思えるまち ○住民（特に若者）が主体的に活動できるまちなど

(7) 地域の誇り、魅力

問8 《お住まいの地域で、誇りを感じ、地域のまちづくりに活用できるものについて》(3つまで選択)
 各地域において、
 「大井川や山並みなどの【豊かな自然】」、
 「良好な【住環境】」、
 「祭りなどの【伝統行事】」、
 などが多くなっています。

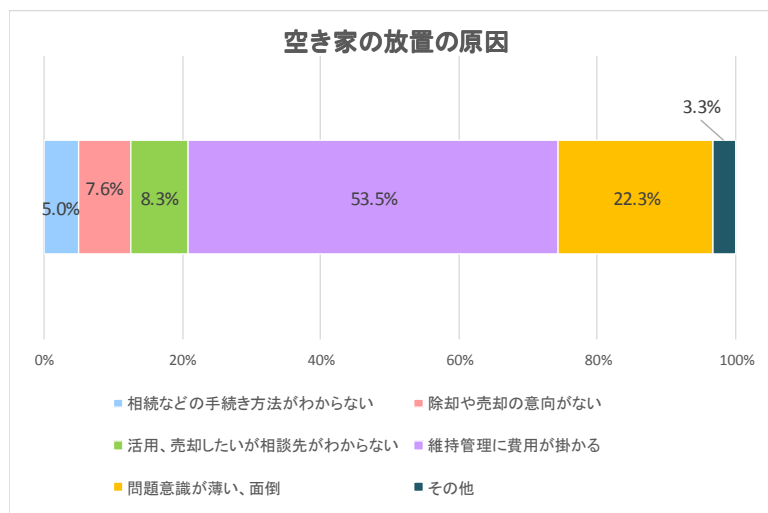


問8 誇りを感じ、まちづくりに活用できるもの「その他」の主な回答	
観光・景色	<input type="radio"/> 大井川鐵道 (SL) <input type="radio"/> 美しい茶畑 <input type="radio"/> 町歩きが楽しめるまちなど
環境	<input type="radio"/> 静かな環境 <input type="radio"/> 渋滞が発生していない道路 <input type="radio"/> 安価でおいしい飲食店など
人	<input type="radio"/> 優しい <input type="radio"/> おおらかな人が多い <input type="radio"/> 時間にゆとりのある人が多いなど

(8) 空き家問題

問9 《空き家が放置される原因は何と考えますか》

「建物の除却や維持管理に費用がかかる」(53.5%)、「所有者が遠方に居住しており問題意識が薄い、面倒である」(22.3%)の2つの理由が多くなっています。

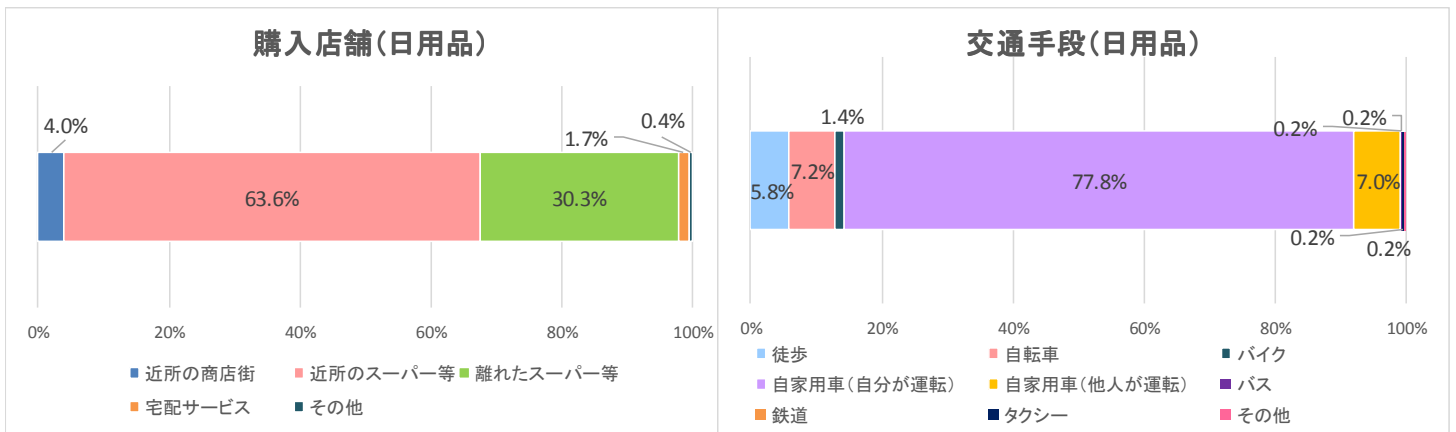


問9 空き家放置の原因「その他」の主な回答	
お金（税金等）の問題	<input type="checkbox"/> 空地にすると固定資産税が増える <input type="checkbox"/> リフォームの負担が大きいなど
需要の問題	<input type="checkbox"/> 借り手がいない <input type="checkbox"/> 物件が売れないなど
心情的な理由	<input type="checkbox"/> 思い出があり、手放せない <input type="checkbox"/> 資産は手放さない方が良いという文化・考え方 <input type="checkbox"/> 他人に貸すリスク及び抵抗感など
手法・手続き	<input type="checkbox"/> 行政の空き家対策、手法及び施策が見えない <input type="checkbox"/> 相続の手続きに費用や時間がかかる <input type="checkbox"/> 所有者の責任など

(9) 日常生活と交通手段

問 10-1 《日用品の買い物の場所と交通手段について》

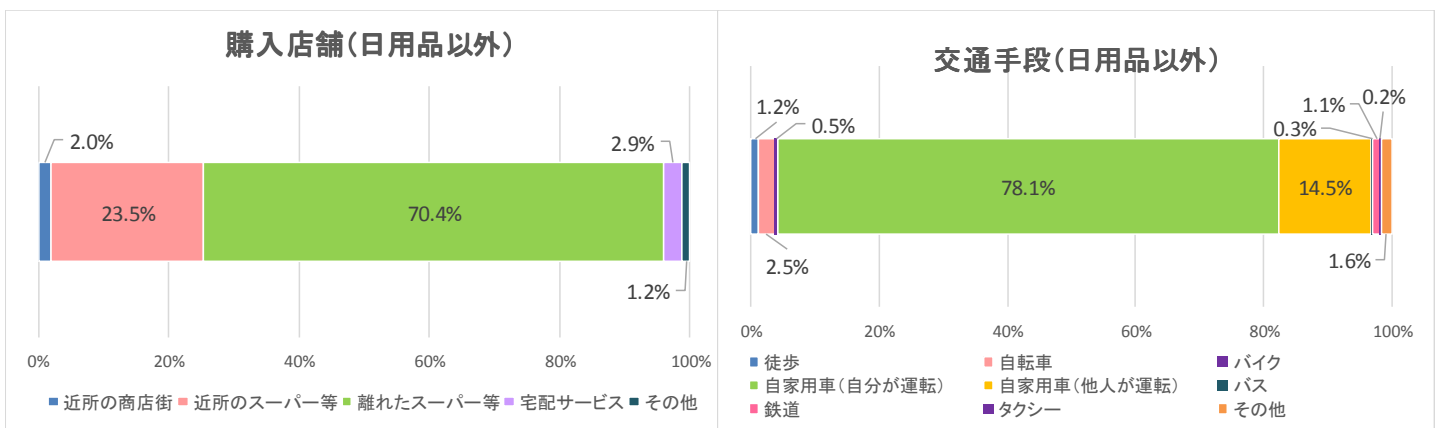
日用品の買い物は、「近所のスーパーや大型店舗」(63.4%)、「自宅から離れたスーパーや大型店舗」(30.3%) が大半を占めています。移動手段は、「自家用車(自分で運転)」(77.8%) 「自家用車(他の人が運転)」(7.0%) と、車による依存が高くなっています。



問 10-2 《日用品以外の買い物の場所と交通手段について》

日用品以外の買い物は、「自宅から離れたスーパーや大型店舗」(70.4%) が「近所のスーパーや大型店舗」(23.5%) より多くなっています。移動手段は、「自家用車(自分で運転)」(78.1%) 「自家用車(他の人が運転)」(14.5%) と、車による依存が「日用品の買い物」より、更に高くなっています。

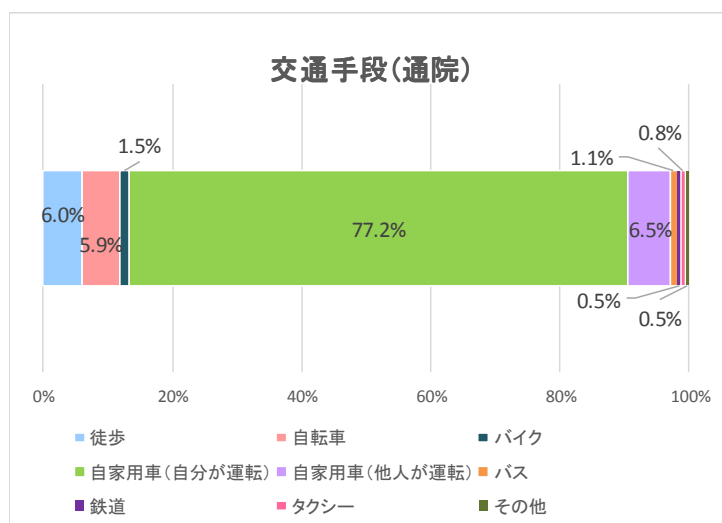
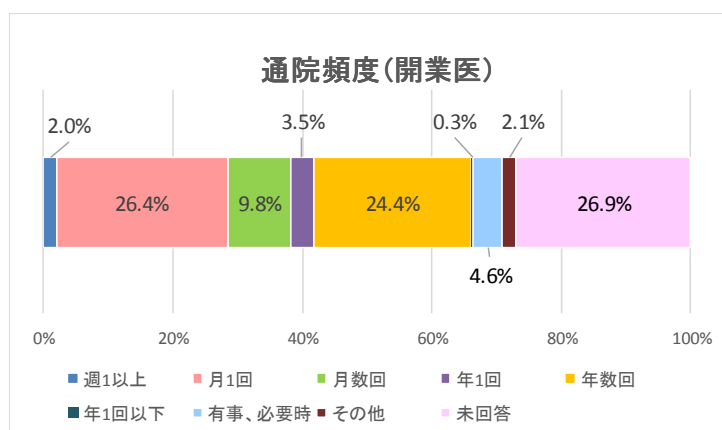
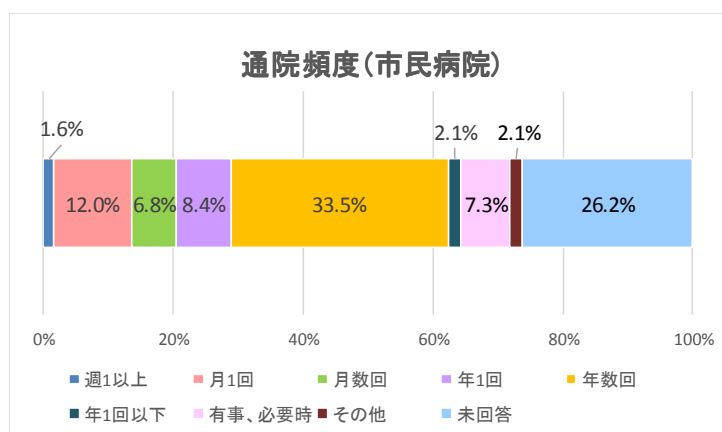
また、その他の回答では、「ネット通販」や「宅配便」を利用する回答もありました。



問 10-3 《通院している場所と交通手段について》

市民病院への通院頻度は、「年数回」(33.5%) が最も多く、開業医への通院頻度は「月1回」(26.4%) が最も多くなっています。

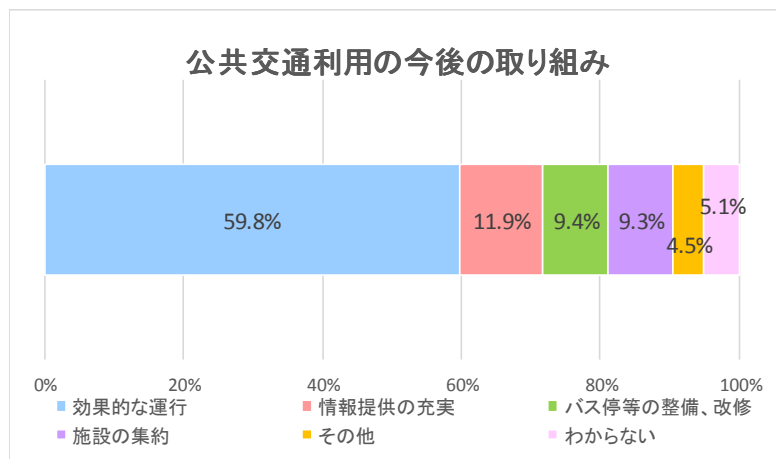
通院のための交通手段は、「自家用車(自分で運転)」(77.2%) が最も多くなっています。



(10) 移動手段と公共交通

問 11 《今後、公共交通を利用するために必要な取り組みについて》

鉄道、バスなどの公共交通を便利に利用するために、必要な取り組みに対する問いでは、「利用ニーズや地域状況を踏まえた、効果的なバスやタクシーなどの運行」(59.8%)の回答が最も多く、「時刻表や料金、路線図、乗換案内等の情報提供の充実」(11.9%)「乗り継ぎ、待合などがしやすい駅前広場やバス停の整備・改修」(9.4%)、「駅やバス停周辺への公共施設や商業施設の集約」(9.3%)となっています。



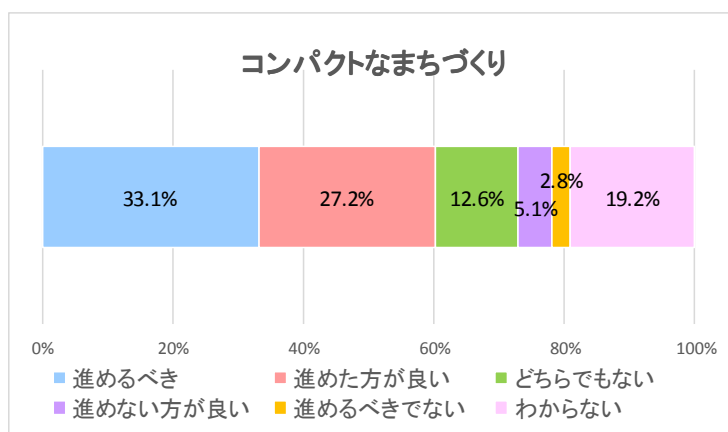
問 11 「その他」の主な回答	
運行本数の強化	<input type="checkbox"/> コミュニティバスの運行本数を増やす <input type="checkbox"/> 本数を増やせば利用が増える <input type="checkbox"/> 廃止路線の復活など
小型バス	<input type="checkbox"/> 自主運行バス（ワゴン車）制度の推進 <input type="checkbox"/> 小型乗合自動車の高頻度運行など
タクシー	<input type="checkbox"/> 乗合タクシーなど代替手段の実施 <input type="checkbox"/> タクシーを有効利用など
料金を下げる	<input type="checkbox"/> 空港バスを各駅停車化、利用本数増やし料金を下げる <input type="checkbox"/> 高齢者には特別定期の発行など
ネット・アプリの活用	<input type="checkbox"/> デマンド交通※の充実 <input type="checkbox"/> 配車アプリ、インターネットの活用など
送迎サービス	<input type="checkbox"/> 民間企業による送迎サービス <input type="checkbox"/> 地域住民による助け合い移動サービスなど

※デマンド交通：利用者の需要（デマンド）に応じて、事前予約により運行する輸送サービス

(11) コンパクトシティ施策

問 12 《コンパクトなまちづくりを進めるべきですか》

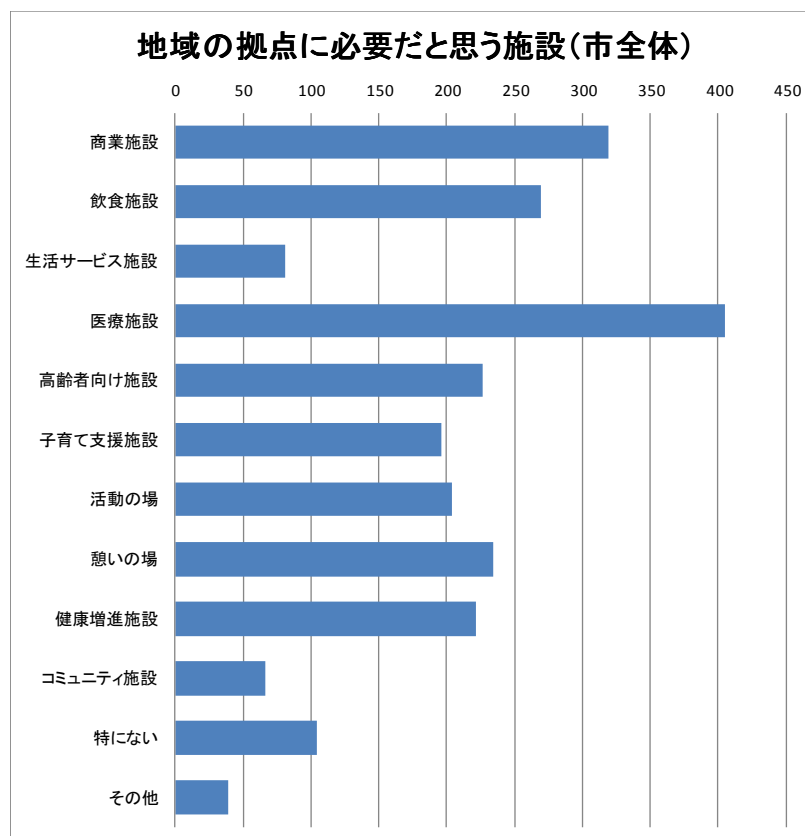
今後、本市においても、コンパクトなまちづくりを進めるべきかどうかの問いに対しては、「コンパクトなまちづくりを進めるべきである」(33.1%)、「どちらかといえば、進めた方がよい」(27.2%)と、コンパクトなまちづくりに対する賛成の回答は60.3%となっています。一方、「どちらかといえば、進めない方がよい」(5.1%)、「進めるべきでない」(2.8%)との反対意見は7.9%でした。また、「どちらでもない」(12.6%)、「わからない」(19.2%)の回答も多くありました。



(12) 生活環境に必要な施設

問 13 《お住まいの地域の拠点に必要なと思う施設について》（3つまで選択）

地域に必要な施設はとの問いに対し、「医療施設」「商業施設」「飲食施設」の順に多くなっています。



問 13 「その他」の主な回答

子どものあそび場	<input type="checkbox"/> 子どもが室内で遊べる施設 <input type="checkbox"/> 生きものとふれあえる施設（動物園、水族館等）など
学生が利用する施設	<input type="checkbox"/> 中高生が勉強できる場所 <input type="checkbox"/> 専門学校、大学など
複合施設・娯楽施設	<input type="checkbox"/> 本屋・CD ショップ、文房具店 <input type="checkbox"/> 若者が集まる複合型商業施設 <input type="checkbox"/> 映画・温泉等の娯楽施設など
高齢者施設	<input type="checkbox"/> 子育て支援施設と高齢者向け施設が合体した施設 <input type="checkbox"/> 高齢者が楽しめる公園、いこいの場、朝市など

(13) 自由意見

問 14 《自由意見》(主な意見)

491人の方から、ご意見がありました。

問 14 自由意見 (主な意見)		(1/2)
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○医療福祉が充実した、暮らしやすいまち ○高齢者に配慮したまち ○若者に魅力のあるまち ○子育てに特化したまち ○災害に強いまち ○病院、行政、商店街が集約された利便性の高いまち ○障害者も不自由なく生活できるまち など 	
緑地	<ul style="list-style-type: none"> ○大井川緑地は、野球場、サッカー場が整備されていますが、バスケットコート、テニス場などを整備することで市内外から多くの人が集える場となる など 	
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ○街灯の設置 (ソーラー) ○外国人が増えても安全なまち など 	
病院	<ul style="list-style-type: none"> ○市民病院の医師確保 ○広域連携することで得意な分野に特化した病院にする ○安心して産むことができる環境づくり など 	
観光	<ul style="list-style-type: none"> ○新金谷駅など映画の撮影地を活用したまちおこし ○すべらず地蔵によしもと芸人を呼んだ企画を定期的実施 など 	
商業施設	<ul style="list-style-type: none"> ○市内に映画館が無い ○アウトレットモールには期待しています ○空港アクセス道路沿いに商業施設の誘致 など 	
まちなか	<ul style="list-style-type: none"> ○本通り商店街に昔の活気を取り戻す ○商店街をリノベーションし、市外の人がわざわざ来くなるようなおしゃれな飲食店を誘致 ○帯通りで毎月実施している催しを、本通り、駅前通りを含めて開催 ○まちなかにおしゃれなカフェが無い など 	
食	<ul style="list-style-type: none"> ○B級グルメの創出 など 	
企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ○若者が魅力を感じる企業の誘致 ○大企業を誘致し工業団地を整備 ○IT関連企業の誘致 など 	
道路	<ul style="list-style-type: none"> ○国道1号バイパスの朝夕の渋滞解消 など 	

(次ページに続く)

問 14 自由意見（主な意見）		(2/2)
交通	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ時間帯に市民病院に掛かる人は多数いるので乗り合いタクシーやバスの運行 ○中心市街地を拠点に各地域へ路線化すれば便利に利用できる など 	
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ○駐車場が少ない など 	
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して預けることができる保育園、幼稚園の確保 ○子育て世代には住みやすいまちだと思ふ など 	
教育	<ul style="list-style-type: none"> ○大学の誘致 ○中高生が集中して勉強する場が少ない ○小学校の夏休みのプール解放をもっと増やして欲しい ○放課後児童クラブの充実 など 	
広域行政	<ul style="list-style-type: none"> ○病院、公共施設、公共交通、観光産業などの充実は、単独行政では限界があると思う。広域的に連携することにより充実を図るべき など 	
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ○耕作放棄地が多数見受けられるため、農地転用をスムーズに展開し、工業や住宅用地としての活用 など 	

3-3 Web アンケート結果

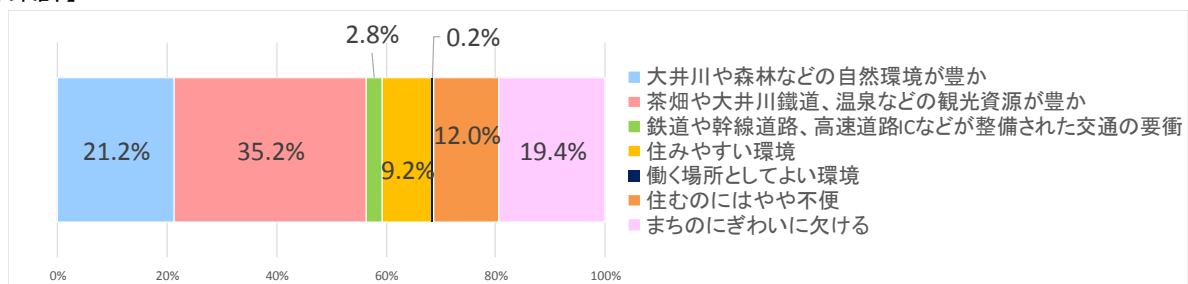
(1) 属性

年代別では、40代(31.6%)の回答が最も多く、次いで50代、30代、60代以上の順で、最も回答が少なかったのは、20代(5.6%)でした。性別では、男性が59.2%、女性が40.8%でした。
地域別でみると、藤枝市、焼津市がともに35.4%であり、本市は29.2%でした。

(2) 市のイメージ

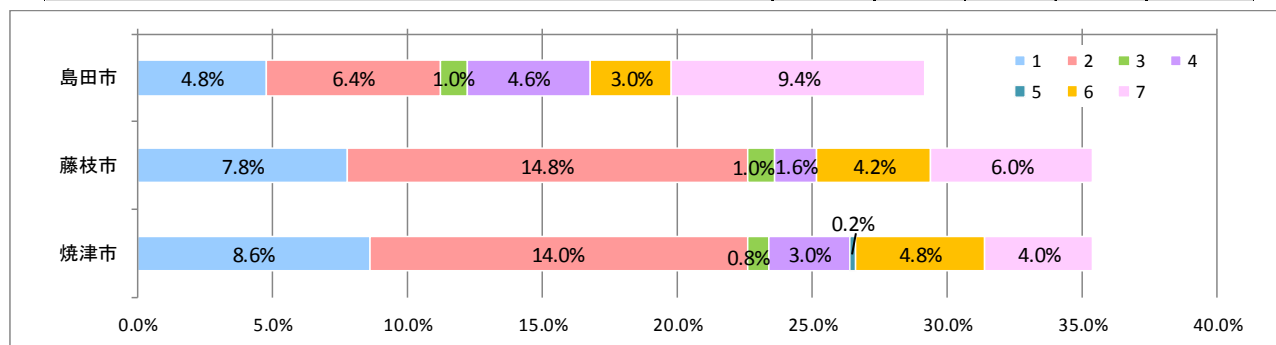
「茶畑や大井川鐵道、温泉などの観光資源が豊か」(35.2%)が最も回答率が高く、次いで「大井川や森林などの自然環境が豊か」(21.2%)で、観光資源や自然環境が豊かとの回答が半数以上でした。一方、「まちのにぎわいに欠ける」と回答した方が19.4%ありました。
地域別でみると、藤枝市、焼津市にお住まいの方からは「茶畑や大井川鐵道、温泉などの観光資源が豊か」が最も回答率が高く、次いで「大井川や森林などの自然環境が豊か」、「まちのにぎわいに欠ける」となっています。本市では「まちのにぎわいに欠ける」が最も回答率が高く、次いで「茶畑や大井川鐵道、温泉などの観光資源が豊か」、「大井川や森林などの自然環境が豊か」となっています。本市とほか2市で順位にこそ違いはありますが、本市に抱くイメージは共通していました。

【全体集計】



【市別集計】

Q1:現在の島田市のイメージについて					
		島田市	藤枝市	焼津市	全体
1大井川や森林などの自然環境が豊か	1	4.8%	7.8%	8.6%	21.2%
2茶畑や大井川鐵道、温泉などの観光資源が豊か	2	6.4%	14.8%	14.0%	35.2%
3鉄道や幹線道路、高速道路ICなどが整備された交通の要衝	3	1.0%	1.0%	0.8%	2.8%
4住みやすい環境	4	4.6%	1.6%	3.0%	9.2%
5働く場所としてよい環境	5	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%
6住むのにはやや不便	6	3.0%	4.2%	4.8%	12.0%
7まちのにぎわいに欠ける	7	9.4%	6.0%	4.0%	19.4%
全体		29.2%	35.4%	35.4%	100.0%



(3) 市の魅力

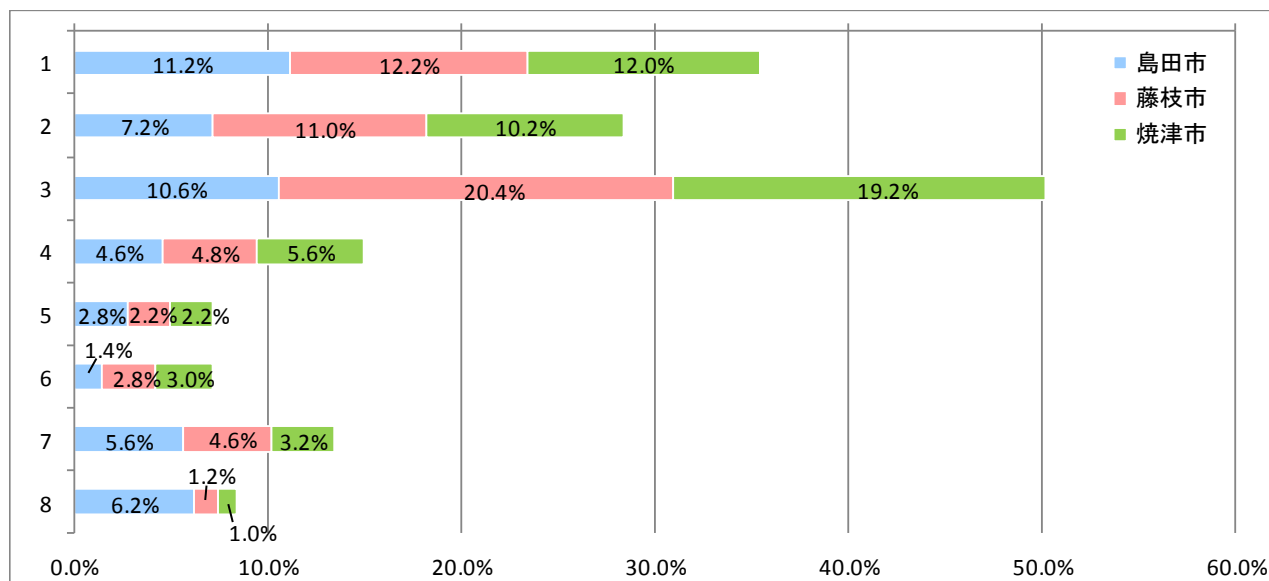
「大井川鐵道」(50.2%)が最も回答率が高く、次いで「お茶」(35.4%)、「大井川」(28.4%)となっています。

地域別でみると、「大井川鐵道」と回答した方のうち、本市は10.6%であったのに対し、藤枝市、焼津市は約20%の回答がありました。他市からみると、「大井川鐵道」は本市の大きな魅力となっています。

「比較的災害の危険性が低い」については、藤枝市及び焼津市は約1%の回答率でしたが、本市の回答率は6.2%と市内在住者ならではの傾向も見られました。

Q2: 島田市の魅力について

		島田市	藤枝市	焼津市	全体
1お茶	1	11.2%	12.2%	12.0%	35.4%
2大井川	2	7.2%	11.0%	10.2%	28.4%
3大井川鐵道	3	10.6%	20.4%	19.2%	50.2%
4東海道の宿場などの歴史的景観	4	4.6%	4.8%	5.6%	15.0%
5温泉	5	2.8%	2.2%	2.2%	7.2%
6祭りやイベントの開催	6	1.4%	2.8%	3.0%	7.2%
7JRや空港、新東名ICなど交通の便がよい	7	5.6%	4.6%	3.2%	13.4%
8比較的災害の危険性が低い	8	6.2%	1.2%	1.0%	8.4%

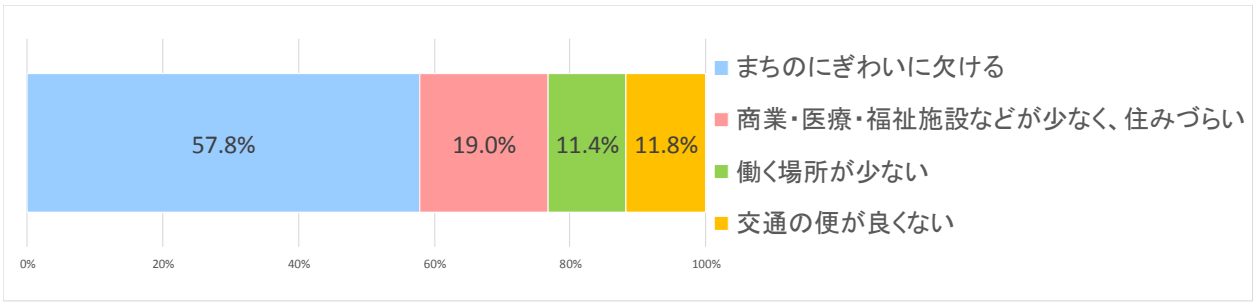


(4) 市の課題

「まちのにぎわいに欠ける」(57.8%)が最も回答率が高く、次いで「商業・医療・福祉施設などが少なく、住みづらい」(19.0%)でした。

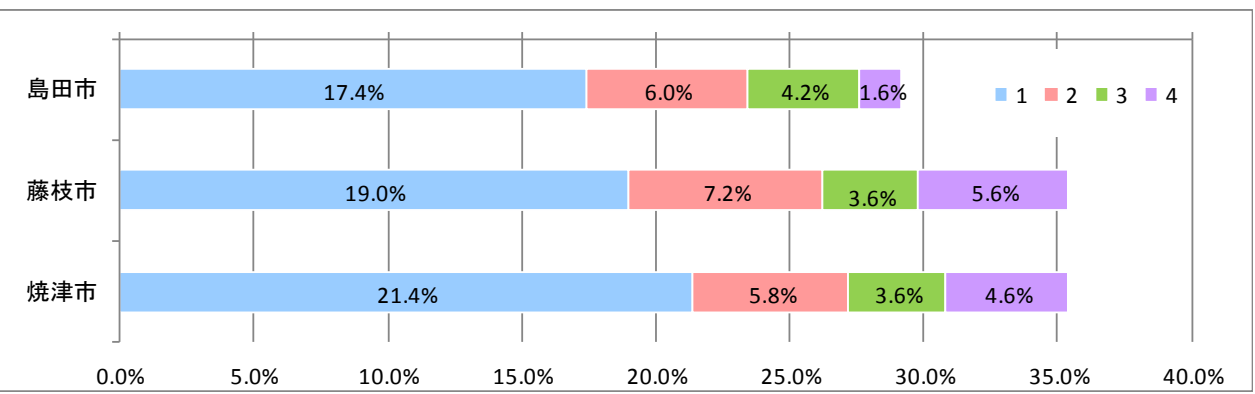
地域別で見ると、いずれも「まちのにぎわいに欠ける」が高い回答率でした。また、「交通の便が良くない」については、本市の回答率は1.6%に対し藤枝市、焼津市は約5%の回答率でやや高い傾向にあります。

【全体集計】



【市別集計】

Q3: 島田市の課題について					
		島田市	藤枝市	焼津市	全体
1 まちのにぎわいに欠ける	1	17.4%	19.0%	21.4%	57.8%
2 商業・医療・福祉施設などが少なく、住みづらい	2	6.0%	7.2%	5.8%	19.0%
3 働く場所が少ない	3	4.2%	3.6%	3.6%	11.4%
4 交通の便が良くない	4	1.6%	5.6%	4.6%	11.8%
	全体	29.2%	35.4%	35.4%	100.0%

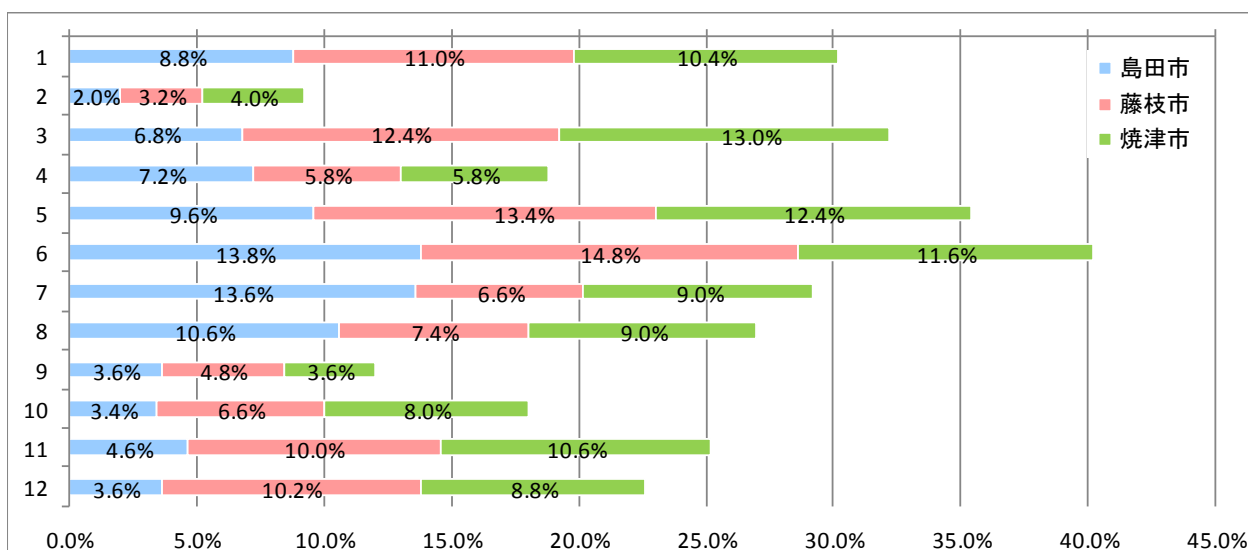


(5) まちづくりの方向性

「魅力ある商業環境を整えた「にぎわい」のあるまち」(40.2%)が最も回答率が高く、次いで「産業立地や観光による「活力」のあるまち」(35.4%)、「道路や公共交通網により、誰もが「便利に移動」できるまち」(32.2%)となっています。

地域別で見ると、藤枝市、焼津市は「便利に移動できるまち」、「活力のあるまち」、「にぎわいのあるまち」が上位を占めているのに対し、本市では「にぎわいのあるまち」は同様の傾向ですが、郵送方式アンケートと同様に、「医療・福祉環境が充実した「暮らしやすい」まち」(13.6%)、「子育てや教育環境が充実した「子育てしやすい」まち」(10.6%)が上位を占める結果となりました。

Q4:これからの島田のまちづくりで重要だと思うことについて					
		島田市	藤枝市	焼津市	全体
1	道路や公園などの都市基盤が整った「快適ですみよい」まち	8.8%	11.0%	10.4%	30.2%
2	地域住民同士の「交流・ふれあい」を感じるまち	2.0%	3.2%	4.0%	9.2%
3	道路や公共交通網により、誰もが「便利に移動」できるまち	6.8%	12.4%	13.0%	32.2%
4	地震や大雨などの自然災害に強い「防災・減災」のまち	7.2%	5.8%	5.8%	18.8%
5	産業立地や観光による「活力」のあるまち	9.6%	13.4%	12.4%	35.4%
6	魅力ある商業環境を整えた「にぎわい」のあるまち	13.8%	14.8%	11.6%	40.2%
7	医療・福祉環境が充実した「暮らしやすい」まち	13.6%	6.6%	9.0%	29.2%
8	子育てや教育環境が充実した「子育てしやすい」まち	10.6%	7.4%	9.0%	27.0%
9	スポーツやウォーキング等が気軽に楽しめる「健康」のまち	3.6%	4.8%	3.6%	12.0%
10	魅力ある景観を保全・活用した「美しさ」を大切にするまち	3.4%	6.6%	8.0%	18.0%
11	豊かな自然や農林業の恵みを生かした「水と緑のうおい」のあるまち	4.6%	10.0%	10.6%	25.2%
12	自然やまち並み景観を楽しめる「歩いて楽しい」まち	3.6%	10.2%	8.8%	22.6%



【コラム：島田市都市計画マスタープラン等まちづくり市民会議などの意見】

まちづくり市民会議では、今後の人口減少や ICT の進展などの社会潮流、「未来投資戦略 2018」(2018 年 6 月、内閣官房)、「スマートシティの実現に向けて・中間とりまとめ」(2018 年 8 月、国土交通省都市局)などで示されている今後の社会や都市のあり方も踏まえ、島田市のありたい姿を検討しました。その結果は次のとおりです。

(1) ICT 進展などによる、暮らしのゆとりと利便性向上

- ・情報通信、自動運転などの ICT を活用し、距離的・物理的な制約にとらわれず、車を運転しなくても医療、福祉及び買物などのサービスを受けることができる。
- ・通勤などの移動に要する時間が削減され、特に働く世代が、育児や家族のために時間を有効利用できる。

(2) 趣味・学びなどを通じた様々なコミュニティの形成

- ・地域課題の解決のみならず、子育て、健康、趣味及び学びなど市民の共通の関心事におけるコミュニティ活動が活発になり、人と人とのつながりが生まれ、思いや楽しみを共有できる環境が広がる。

(3) 時間や場所を問わない、多様な働き方の実現

- ・在宅勤務やシェアオフィスなどテレワークが一般化し、時間や場所を問わず働くことができる環境が整備される。
- ・多様な働き方が広がることで、仕事と育児や介護などが両立しやすい環境となるとともに、女性や高齢者などの就労が促進される。
- ・豊かな自然や農業と共生した働き方が実現できる。

(4) 自然、歴史及び観光などの資源を活かした、まちのにぎわい向上

- ・大井川をはじめとした豊かな自然、川越街道、蓬萊橋、大井川鐵道の SL など、他のまちにない魅力を磨き上げ、つなげることで、多くの観光客が集い楽しむ。
- ・高速道路 IC 周辺、富士山静岡空港周辺、島田駅周辺といった市の玄関口に、にぎわいの交流拠点を設け島田の魅力を観光客と市民が共に楽しむ。
- ・多くの外国人観光客が島田を訪れ、その魅力を楽しむ。

まちづくり市民会議の様子



その他福祉団体にヒアリングを行い、都市のありたい姿として次の意見をいただきました。

- ・医療、スーパー、公共機関などが身近にあり、地域社会における心のバリアフリーが充実する。
 - ・駅、道路、公共施設などのバリアフリー化が進む。
 - ・障害の有無に関わらず、それぞれが共に支え合う。
- など